

JSCA九州メール版

発行・日本建築構造技術者協会九州支部
 TEL 092-406-7204 / FAX 092-406-7214
 Web Site : <http://jscakyushu.jp/>
 E-mail : info@jscakyushu.jp

令和元年度 通常総会報告



JSCA九州支部「令和元年度通常総会」が5月24日、福岡市中央区のタクラホテル福岡において開催されました。

司会の木村正人様による定数確認の後、原支部長挨拶で開会しました。

議長に山下正吾様を選出され、平成30年度の事業報告・収支報告・監査報告、令和元年度新組織紹介、今林新支部長の挨拶のち、事業計画・支部予算について原案通り承認されました。

議長退任後、各地区会幹事の報告がありました。続いて今林新支部長からJSCA創立30周年イベントの告知、重松副支部長から来年沖縄で開催される本部構造デザイン発表会の告知が行われました。

詳しくはJSCA九州HP上の議事録をご覧ください。

http://jscakyushu.jp/data_note/soukai-R1-M



原支部長



山下議長



今林新支部長



JSCA 九州構造デザイン発表会 2019 報告

今年も6回目となる「JSCA 九州構造デザイン発表会 2019」が行われました。JSCA 中国・四国支部からのゲストも招き、以下6名の発表者による発表会となりました。

コメンテーター：宮崎大介（JSCA 九州木質系部会長）、牛尾忠信（北九州地区会幹事）

ゲスト：森保 直也（中国支部）、戸田 友一（四国支部）、坂田 憲彦（中国支部）、
中村 康一（四国支部）、佃 茂樹（中部支部）

進行役：重松 正幸、新井 浩晃、安達 亮平、福田 光俊、高山 一斗

●開会挨拶（今林支部長）

- ①「既存地下躯体を全面利用した超高層オフィスビルの設計」
－HIBIYA PARK FRONT－ 山本 能之（鹿島建設 九州支店）
- ②「熊本地震応急仮設住宅団地集会所群」
－Public meeting places for 2016 Kumamoto Earthquake victims－
黒岩 裕樹（黒岩構造設計事ム所）
- ③「ソフトファーストストーリー型ハイブリット制振構造」
－第1 明星ビル－ 矢澤 真由美（竹中工務店 九州支店）
- ④「2 ビル接続部の構造計画について」
－福岡空港国内線ターミナルビル再整備工事－ 大澤 元嗣（梓設計）
- ⑤「コンクリートと木梁がコラボする空間+1」
－R 銀行本部（もとぶ）支店－ 上江洲 靖（国建）
- ⑥「シンボルタワーを有する建物群の構造デザイン」
－近畿大学 ACADEMIC THEATER－ 岸本 直也（NTT ファシリティーズ 九州支店）

●総 括（松下副支部長）

先の総会で今林新支部長から「関わりを強くする」というテーマが語られ、構造も含めさまざまな分野との交流の重要性を提起されました。それもあって今回のデザイン発表会では会場からの質問が活発に行われました。また発表会終了後の懇親会でもパネルを用いて各発表者のインタビューが行われ、より交流が深まる機会となりました。来年以降も皆様の発表をお待ちしています。



記念講演会

「九博の歩みと書の鑑賞」



独立行政法人 国立文化財機構 九州国立博物館

島谷 弘幸 館長

今年の記念講演は、九州国立博物館（以下「九博」）の島谷弘幸館長に「九博の歩みと書の鑑賞」と題しまして、ご講演していただきました。

島谷館長は、東京国立博物館学芸部美術課書跡室長、資料課長、展示課長、文化財部長、学芸研究部長、副館長（兼）独立行政法人国立文化財機構本部研究調査役を経て、2015年4月より現職を務められております。

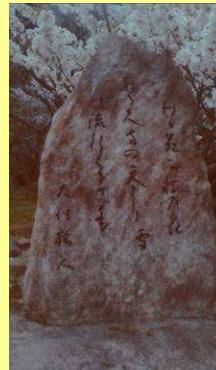
「日本の美・日本の心」（ドイツ国立芸術展覧会ホール 2008年）、「宮廷のみやび」（東京国立博物館 2008年）、「和洋の書」（東京国立博物館 2013年）などの特別展を担当され、著書には「古筆学拾穂抄」（1997年5月20日、木耳社刊）、「和洋の書」（2009年8月1日、日本の美術 519号、ぎょうせい刊）、「文人の書」（2008年5月10日、日本の美術 504号、至文堂刊行）「書之美」（2013年7月15日、毎日新聞社刊）などがあります。

本講演では、九博の歩み、書の魅力と楽しみ方について、わかりやすくご講演していただきました。

紙面にてダイジェストをお読み下さい。（九州支部広報委員会でダイジェストを書いていますので、館長のご講演内容と多少異なるところもありますが、ご了承ください）。

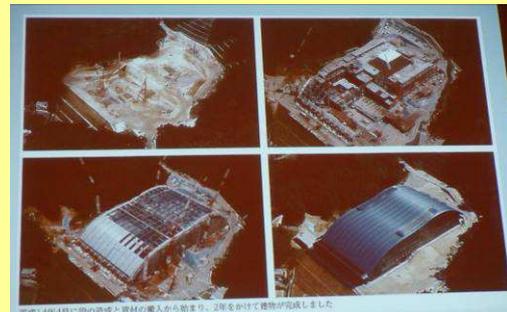
■新しい年号と九博

- ・九博が立つ太宰府の地が、「令和」の発祥と言われている。
- ・「令和」は、大伴旅人が梅花の宴で読んだと言う和歌に由来する。
- ・宴が行われた旅人の屋敷があったと言われている場所の一つが、坂本八幡宮である。



■九博の歩み

- ・九博は、東京、奈良、京都に続き4つ目の国立博物館である。
- ・東京美術学校（現：東京学芸大）の校長も務めた岡倉天心氏が、明治32年（1899）に福岡日日新聞（現：西日本新聞）の取材に応じ、「九州にも国立博物館があるべきだ」とおっしゃったことから、太宰府天満宮の4代前の宮司をはじめ、多くの人々から博物館構想が挙がったが、なかなか実現は難しかった。
- ・ようやく2005年に九博が完成。
- ・九博の敷地は、太宰府天満宮の2代前の宮司が「博物館の用地に」と県に寄付した土地に、県が多少買い足したものである。
- ・県の土地は法律上国に寄付出来ないこともあり、他の3つの博物館とは異なり、国と県が一体となって運営する方式を採用している。
- ・敷地面積は約16万㎡（国立博物館では最大）、延床面積約3万㎡、最高高さ約36m、東西が160m、南北が80mで、国際競技の可能なサッカー場が一面すっぽり入るほどの大きさである。
- ・建物は免震構造である。熊本地震時に行っていた展示会においても被害はなかった。改築計画のために、世界中の博物館、国内の博物館の関係者が視察に訪れている。
- ・外壁には熱効率を上げるためにダブルスキンを採用し、収蔵庫の中廊下には調湿機能のある杉の木を用いており、エネルギーに対しても優しい博物館である。



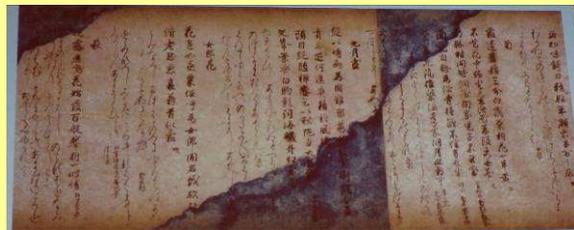
- ・コンセプトは「日本文化の形成をアジアの視点からみる」、目標は「学校より面白く、教科書のよりわかり易い」、「文化は西から、九州から」である。
- ・韓国と3か所、中国と5か所、ベトナム、タイと学術交流協定を結んでおり、外国との交流を非常に重視している。
- ・展示室は、5つのテーマで展示している。（縄文、弥生、歴史時代、アジアとの交流、世界との交流）

■書の用と美

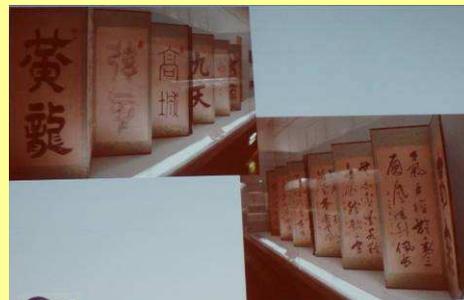
- ・書は実用と美の要素があるため、両方で観てもらいたい。
- ・書では「全体の調和」、「造形美」、「線の迫力」の3つが揃っているものが良い書とされている。



- ・書を読もうとすると鑑賞を忘れてしまうことがある。文字が読めなくても下絵を観て綺麗だと感じるだけでも良い。
- ・料紙だけ観ても面白い。繊維を漉いてつくる料紙には、大胆に斜めに繋げてデザインされたもの、数枚を重ね継ぎされたものなど多岐にわたる。



- ・掛幅、絵巻、屏風など時代の移り変わりにより、いろいろな楽しみ方ができた。
- ・屏風の中には、右から、左から、正面からと、座る位置により3回楽しめるものなどもある。



■書との出会いから研究者へ

- ・小学校2年生の時に、担任の先生に勧められて書を始めた。
- ・書家になろうと大学に進んだが、小松先生との出会いをきっかけに学問を道にすんだ。
- ・学問の道に進んだことにより、現在の仕事に携わることができ、多くの方々と出会うことができた。
- ・組織と組織が仕事をするようになって、実は個人と個人のつながりが仕事を作っている。人と人の出会いはとても大切である。



記念講演風景

懇親会報告



総会、九州構造デザイン発表会および記念講演会終了後に、多数の正会員、賛助会員およびご来賓の皆様が集い、福田顕議（広報委員会委員長）の司会で懇親会は盛大に催されました。



JSCA 九州 支部長
今林 光秀 挨拶



来賓（公社）福岡県建築士会会長
鮎川 透 様 挨拶



来賓（公社）日本建築家協会九州支部支部長
川津 悠嗣 様 乾杯ご発声



工業組合 福岡県鉄構工業会 理事長
鶴田 陽一 様 万歳三唱ご発声

編集後記 原英基支部長が1期2年の任期を終えられ、本年度から今林新支部長のもと新体制になりました。今年は法人化30周年記念事業、来年は構造デザイン発表会沖縄開催と大きなイベントが控えています。広報委員会として微力ながらではありますが、貢献できればと思っております。最後になりましたが、原さん、ありがとうございました。今後とも御指導のほどよろしく願いいたします。（JSCA九州支部広報委員会 福田・春元・中島 記）